

まえがき

理工図書が明治 32 年の創業以来、今年 110 年を迎えることができたので、2009 年 10 月 16 日に感謝の気持ちとして心ばかりの宴を催すのでご臨席を賜りたい、と書かれた招待状を 8 月末にいただいた。

出版業界は、少子化、インターネットの普及、文字離れなどの社会現象の影響で 10 年ほどまえから不況と言われ続けている。特に土木関係の専門書を扱っている出版社は、公共事業が激減していることもあって経営がことのほか厳しい状況にあり、2 年前には明治 29 年創業の山海堂さえ倒産している。

理工図書においても条件は同じはずである。それにも関わらず超一流ホテルで祝賀会ができるには、何か理由があるに違いない、ひょうとしたら経営の秘訣を知ることができるかも知れないという興味で出席することにした。

その後で、理工図書の志賀氏から「来賓としての祝辞を欲しい」という電話をいただいた。祝辞の原稿を考えながら、理工図書と私の関わりについて思い起こしてみることにした。

理工図書と私の関わり

理工図書と私との付き合いは、昭和 63 年(1988)からである。高知工業高校の大先輩で、以前からお世話になっていた村山保先生に口添えをしてもらったのがきっかけであった。村山先生は、理工図書から「測量」(1952)、「AE コンクリートの実用性」(1953)など 6 冊の著書を出版されていた。

1989 年に「新道路土工指針による擁壁の設計法と計算例」という本を出版した。執筆の際に、当時勤務されていた木村博さんから実に貴重なアドバイスをいろいろともらった。本のボリュームは手頃な価格にするために 200~250 頁以内、計算例をできるだけ多く付ける、本の表紙は書店に並べたとき目立つ赤色とする、など木村氏の戦略が見事に当り予想以上に売れた。

著書に関する質問も多く寄せられるようになった。このため、1995 年に「誰も教えてくれなかった疑問に答える擁壁設計 Q&A」を出版した。パソコンが普及してきていたので、エクセルで作成した擁壁計算ソフトを記録したフロッピーディスクを添付した。



理工図書から出版した本

理工図書として初めての企画であり、書店でフロッピーディスクだけが抜き取られるのではないかなどいろいろと心配はあったが、この本も期待されていた以上に売れた。

その後、新・擁壁の設計法と計算例(1998)、続・擁壁の設計法と計算例(1998)、土木構造物設計施工の盲点(1999)、「誰も教えてくれなかった疑問に答える擁壁設計 Q&A 撰集」(2000)、「誰でも簡単できる Excel による擁壁設計」(2004)、「誰も教えてくれなかった疑問に答える擁壁設計 Q&A105 問答」(2005)という本を次々と出版していただいた。

また、理工図書が出版としている「土木技術」という専門誌に、2004 年 9 月から 28 回にわたり「連載 わかりやすい擁壁の設計講座」を執筆させていただいた。これは当時、土木技術編集部におられた青木卓郎氏の企画によるものであった。連載が終わった後には、加筆修正した上で出版するという約束をしていたが、「道路土工 - 擁壁工指針」の改定版の発刊が遅れていることもあって約束をまだ果たしていない状態にある。

柴山斐呂子社長にお目にかかったのは、10 年前に創業 100 周年の祝賀会を東京の帝国ホテルで開催されたときが最初であった。2 度目は 2005 年 6 年前で、社長をされていたご主人が病気になられ経営を引き継がれた時だと思う。志賀氏と二人でわざわざ高知まで挨拶に来ていただいた。

3 度目は 2006 年 7 月で、東京のダイヤモンドホテルに招待されたときであった。志賀氏、山田氏、土木技術の編集委員長の辻氏、土木技術に連載記事を

書かれている会計検査院の望月氏たちと一緒に食事をしたことがある。柴山斐呂子社長は、非常に気配りをされる方というのが私の印象である。

#### ホテルニューオータニと日本庭園

「理工図書株式会社創業 110 周年感謝の会」は、ホテルニューオータニの宴会場「ザ・メイン 1 階」で 18 時より開催されることになっているが、1 時間ほど早く着いたので、東京名園の 1 つに数えられている日本庭園を散策した。

ホテルニューオータニは、帝国ホテル、ホテルオークラとともに、ホテルの「御三家」と称される名門ホテルである。1964 年に開催された東京オリンピックの際に、外国人客の宿泊施設として、政府の要請を受けた大谷重工業社長の 大谷米太郎 が建設したもので、ユニットバスや高性能カーテンウォールなど数々の合理化工法が取り入れられている。また、設計には、柔構造理論が初めて採用されている。シンボルともいえる最上階の回転ラウンジの回転機構には、かつて戦艦大和の主砲塔を回転させた技術が応用されたということである。

約 4 万 m<sup>2</sup> の広大なホテルニューオータニの日本庭園は、400 年以上の歴史がある。元は加藤清正の下屋敷であったが後に井伊家の中屋敷となり、明治維新後は伏見宮邸宅となる。大東亜戦争後に伏見宮がここを手放すことになった時、外国人の手に渡ろうとしたのをホテルニューオータニの創業者大谷米太郎が「この由緒ある土地を外国に売り渡すのは惜しい」として買い取ったとされている。



日本庭園の見取り図



背後の建物が宴会場のザ・メイン



池泉廻遊式の日本庭園



松と石は山、白い砂利は水を表した枯山水



奥にある建物は、鉄板焼レストランの「石心亭」





庭園内には42基の石灯籠が置かれている。写真は鎌倉時代の春日灯籠。



挨拶をされる柴山斐呂子社長。司会は実の弟で、山田久男氏



高さ6mの大滝



乾杯の音頭の後、日本を代表するデキシージャズバンド「外山喜雄とデキシージェインツ」による演奏があった。外山喜雄氏は柴山斐呂子社長の友人とのことであった。

### 祝賀会

祝賀会は、日本庭園に面した宴会場「ザ・メイン1階」で18時に開始された。



挨拶をされる柴山斐呂子社長。ステージの横には、4代目社長の遺影が飾られていた。



柴山斐呂子社長とツーショットで記念写真

来賓としての私の祝辞



祝辞を述べる私

ただいまご紹介いただきました右城でございます。ご指名をいただきましたので一言ご祝辞を述べさせていただきます。

理工図書の皆様，創業 110 周年まことにおめでとうございます。このような立派な祝賀会にお招きいただきましてありがとうございます。

私が理工図書とお付き合いさせていただくようになってから 20 年が過ぎました。木村博様にお世話になって，平成元年に「土工指針による擁壁設計法と計算例」という本を初めて出版させていただきました。それ以来，ずっとお世話になっています。

平成 15 年には柴山社長が志賀様と一緒に高知までわざわざ挨拶に来ていただきました。柴山社長の誠実さと律儀さに大変感動させられました。

いま，出版業界は少子化，インターネットの普及，活字離れなどに加えて，100 年に一度という大不況の影響で，経営が非常に厳しい状況にあると思います。しかし，見方を変えれば，絶好のチャンスであると思います。建設産業に関わるほとんどの会社が，「このままでは駄目になる。なんとかしなければならぬ。しかし，どうしたら良いのか分からない」と思っています。理工図書には，建設会社あるいはそこに勤務する技術者が元気になり，そして幸せに

なるような本をたくさん出版していただきたいと願っています。一冊の本が会社を救い，一冊の本が人生を変えることがあります。そのような本を出版されることを期待しています。

最後になりましたが，110 周年を機に理工図書が益々発展されますよう祈念しまして私の祝辞とさせていただきます。本日はおめでとうございます。



(2009 年 10 月)